

まるでジャングルを切り取ってきたかのような「垂直の庭」。灌水時の排水のために設けられた下のステレスボックスにはメダカも泳ぐ。

MARITHÉ + FRANÇOIS GIRBAUD
Midousuji
マリテ+フランソワ・ジルボー 御堂筋店
[大阪]

生長するインドア グリーン・ウォール。

ヴェジタルテキスタイルを象徴する。

「マリテ+フランソワ・ジルボー 御堂筋店」は、植物学者であるパトリック・ブラン氏が手掛けた「垂直の庭」があるブティックだ。大阪の高級ブティックなどが軒を連ねる御堂筋に向かって大きく取られた開口部越しにも、その立体的で風変わりな“庭”の様子は分かる。実際、店内でその庭を見ると、室内という過酷な状況にありながら、一瞬擬木かと思うほど、一つ一つの植物が生き生きとしている。パトリック・ブラン氏は熱帯植物の専門家である。すでにパリ、N.Y.で、ブティック、ホテル、美術館などと同じシステムで「垂直の庭」を導入している。どれもブラン氏の専門である熱帯植物が垂直面にグラフィカルに植え込まれ、独特な景観をつくりだしている。

この庭の施工を担当した竹中庭園緑化・松井正樹さんは「ブラン氏が描いた植物レイアウト図(15ページ)は、グラフィック的にも美しく、植物が生長した最終の仕上がりを念頭に置いてデザインされていることを考えると、ウォールアートと言っても過言ではないでしょう」と語る。

「マリテ+フランソワ・ジルボー」の世界最大級の広さを持つこのショップには、ゾーンとスポーンという二つのゾーンが存在し、この庭がそれぞれのゾーンをつなぐ役目を果たしている。インテリアデザインはクリスチャン・ガヴォイル氏。グリーンと茶のグラデーションによる魚の鱗のような壁面と、タモムク材を使った素っ気ない、シンプルな什器には自然界の要素が感じられる。そしてこの“庭”もまた、植物が自生する小さな自然。壁面に綿やポリエステルといった洋服に使われる繊維をリサイクルしてできたフェルト地を貼って大地とし、恵みの雨となる自動灌水の排水用に設けたボックスに水を張ってメダカを泳がせればちょっとしたビオトープになる。ブランドのコンセプト「ヴェジタルテキスタイル(植物の生い茂ったテキスタイル)」をまさに象徴したものとなっている。